



奉詠する茨城県宗務所梅花講の皆様①

巻頭言

安楽寺住職 若林宜範

毎年暑さ厳しい日が続き、日々の生活においても命の危険ともなる夏ですが、立秋を過ぎると段々と秋の雰囲気を感じます。お寺は山

安楽寺報

第50号

発行
令和8年8月
安楽寺
印刷
一喜堂印刷(株)
☎ 35-2624



に囲まれ、木々の移り変わりや虫の鳴き声などが夏の終わりを知らせてくれます。さて、皆さんは梅花や詠歌という言葉聞いたことがありませんか。五月半ば、曹洞宗茨城県宗務所の梅花講の皆様が来山し、本堂にて詠歌を奉詠されました。宗務所というのは各都道府県の曹洞宗寺院を統括する事務所です。このたびは、茨城県の曹洞宗寺院に属している梅花講の皆さんが安楽寺を訪れました。

詠歌はお彼岸やお盆など様々な法要、時には葬儀や法事でもお唱えすることのある歌です。内容はすべて仏さまの教えがもとになっていて、お釈迦様や観音様をたたえる言葉や、道元禪師や瑩山禪師の物語、または亡くなった人のご供養や平和のちかいなど多くの曲があります。詠歌をお唱えすることで仏さまの教えに親しみ、その教えを実践していこうとおちかいます。詠歌をお唱えする集いのことを梅花講といいます。「梅花」とは梅の花のこと。まだ雪におおわれた春のはじめに、他の花に先がけて花開き、春の訪れを知らせる梅の花がその集いの由来になっています。梅花講の講員さんたちは詠歌だけでなく、時にはお寺の行事に参加したりお手伝いをしてくれたりします。代表的な曲に「三宝御和讃」という曲があり、



奉詠する茨城県宗務所梅花講の皆様②

その冒頭は「心の闇を照らします」ではじまります。心の闇というのは、悲しみや苦しみ、不安や悩みなど光のない暗い世界に例えられる暗い気持ちのことです。誰しもが一人で生きていくことはできません。仏さまを信じ、その教えを敬うことで、仏さまのお力が心を通り照らしてくれるという事です。どこかで耳にしたときはそのことを思い出してみてください。

合掌

晋山式後の作業報告

晋山式が終わってから記念誌の製作を進めておりましたが、記念誌委員の皆さんと何度も校正作業を重ねようやく完成しました。順次配布を進めますのでお手元に届きましたら一度目を通していただけると幸いです。

また、晋山式の法要の様子は引き続き動画サイト「YouTube」にアップしておりますので、「崇福山安楽寺晋山式」と検索して視聴することが出来ます。編集はしておりますが、長時間の動画もありますので、休憩しながらご覧ください。

分教区護持会総会開催

各寺院には護持会という組織があります。安楽寺護持会はお檀家の皆様で構成され、毎年護持会費をお預

沙羅の会たより

安楽寺婦人部沙羅の会は現在15名の会員で活動しており、月に1度第2土曜日の14時よりお寺に集まり定例会をしています。また、年間通して東南アジアの様々な民族の女性たちが作ったクラフトの販売や現地に届ける絵本の訳文貼り、その他食事会や小旅行などを行っています。クラフト販売で購入いただいた代金は、SVA（シャンティ国際ボランティア会）を通じて現地へ送られ、子どもたちの教育資金や、学校建設にあてられています。4月～11月の日曜祝日の午前9時～12時までクラフト販売を本堂の一角で行っています。興味のある方はぜひ一緒に活動しませんか。

令和八年後期行事のお知らせ

秋彼岸合同法会並びにチャリティ寄席

●左記日程にて、秋の彼岸合同法要並びにチャリティ寄席を開催致します。年回忌にあたる方には、別紙にてご案内致します。チャリティ寄席は、法要案内の有無に関わらずどなたでも参加可能となっておりますので気軽においでください。

期日：九月二十三日（水）秋分の日
場所：安楽寺本堂
日程：寄席 午前九時四十分～十時二十分（真打 春風亭伯枝師匠）
法要：午前十時三十分
本チャリティにて皆様からお寄せいただきました浄財は、SVA（シャンティ国際ボランティア会）を通じて、教育の機会に恵まれないアジアの子どもたちの教育支援活動や国内外の災害支援に役立てさせていただきます。皆様、ご協力お願い申し上げます。

写経会

●日常では味わえないひと時をいかがでしょうか。お経に親しむ講座も併せて行っています。初心者大歓迎。正座ではなく、椅子席となっております。

場所：安楽寺
期日：九月六日（日）、十月十一日（日）、十一月七日（土）、十二月六日（日）
時間：各回午後2時より
会費：1,000円
※参加費は、アジアの子ども教育支援に役立てられます。
※持ち物：書道用具一式（お手持ち・写経用紙はお寺で用意します）
※参加ご希望の方は、安楽寺まで電話でお申し込みください。

秋の塩田平札所めぐりのお誘い

●秋の塩田平で四国霊場をお遍路してみませんか。信仰、健康、観光が目的でもあり、歩くことでさらに新たな発見があるでしょう。

また、塩田平は「太陽と大地の聖地」として、日本遺産に認定（詳しくは、日本遺産で検索ください）されています。この機縁に、魅力溢れる文化と歴史に触れてみましょう。

とき：十一月十五日（日）
午前八時半下之郷長福寺集合
参加費：三〇〇円
持ち物：弁当、飲み物、雨具など他必要物

コース：東塩田コース

長福寺（下之郷）→西光寺（中組）→大円寺（奈良尾）→地藏堂（平井寺）→薬師堂（鈴子）→釈迦堂（石神）

※参加ご希望の方は五日前までに先達寺院（安楽寺）に電話にてお申し込みください。
※札所巡り用朱印帖・朱印軸はあらかじめ購入しておいてください。（安楽寺でも購入できます）
※御朱印は、各札所二百円。
※参加者全員に、別所温泉共同浴場の入浴券を進呈致しますので、札所めぐりの疲れを癒してください。
※今回よりコースを見直し、今回の東塩田コースは最後徒歩にて長福寺様へ戻るルートになりました。

歩いて国宝めぐり

●安楽寺裏山を通る別所峠は、近年環境省から中部北陸自然歩道の一部に指定され、整備を進めています。昔は生

活道路として住民にとって欠かせない道でしたが、車社会が進んでからは忘れられていました。ぜひこの機会に紅葉を楽しみながら秋の彩り豊かな自然の中を歩いてみましょう。ハイキング気分でするのでぜひ気軽にご参加ください。

また、近年全国的に熊出没のニュースが報道されていますが、安楽寺裏山は現時点で熊の出没や目撃情報はありませんので安心してご参加ください。

とき：十一月九日（月）午前九時
安楽寺集合
参加費：無料
持ち物：飲み物、雨具など他必要な物

コース：安楽寺（国宝八角三重塔）→別所峠→青木村殿戸（五島慶太生家跡・県宝日吉神社）→大法寺（国宝見返りの塔）→青木道の駅

申込み：三日前までに電話にて安楽寺まで

帰路：路線バス（当郷停留所）→上田原駅（別所線）→別所温泉駅
※雨天中止とします（雨天時、参加希望者は寺に確認ください）
※大法寺で解散いたしますが、そのあと昼食をとられる方は、持参もしくは青木道の駅食堂にて昼食でも結構です。また、帰路は各自となりますが、公共交通機関を利用する場合は、路線バス（当郷停留所）→上田原駅（別所線）→別所温泉駅となります。



法輪寺たより



毎年、新年のご祈祷にはじまり花まつりや施食会、秋の地藏まつりなど様々な行事を行っております。新年のご祈祷では地域のどんど焼きと併せて行うことで子供たちがお寺へお参りするきっかけとなり、中には家族三世代で参拝される方もいて地域全体の親睦にも繋がっています。

全国的にも年々地域の行事は担い手不足ということもあり減少している昨今ですが、子供たちの笑顔や明るさは大人にとっても力の源でもあるのではないかと思います。気軽に遊べる場所もなくなり、自宅にこもってオンラインで友達とゲームなどをする時代です。顔と顔を合わせて関わりあう時間を少しでもお寺がかけ橋となってあげられたいと思っています。

また、恒例となっております秋の地藏まつりについて、今年は**《九月五日(土) 十六時》**より行う予定で計画を進めております。堂内にてご祈祷をしたのち、境内において様々な振る舞いや子どもたちと花火をしたり、楽しい時間を過ごしたいと思っておりますので、地域の方に限らずぜひごなたさまも気軽に立ち寄りください。

※法輪寺裏にありますが八木沢霊園は、現在すべての区画が購入済となっており空きがない状況です。購入希望がある中、大変申し訳ありません。その他、八木沢霊園には合同墓(永代供養墓)もありますので、永代供養を検討しております方はご相談ください。



安楽寺にて分教区護持会総会研修会の様子

かりして、寺の維持管理や修繕修復に活用させていただいております。曹洞宗は全国に約一万五千件の寺院があり、長野県には約六百の寺院があります。中でも上田市には三十七件の寺院があり全国的にもひとつの市としては非常に寺院数の多い地域であり、仏教信仰の深い地域でもあります。ご存じの通り、長野県はもとより上田市も大変広い市であるゆえに、三十七件の寺院全体で行事をするのは容易でなく、細かく五つのエリアに分けて、各寺院の行事はその小ブロックごとで行うこととなっています。

宮城県曹洞宗青年会 来山

宮城県の曹洞宗青年僧侶によるボランティア団体「サントピアアップみやぎ」が安楽寺に拝登され、先代恭英和尚を講師として研修会を開催しました。講演内容はボランティアについてでし

安楽寺が属するのは、塩田・川西エリアで十件の寺院で構成されています。それを分教区と呼んでいます。安楽寺の属する分教区では毎年会場を輪番制とし総会を行っています。今年度は安楽寺が会場となっております。総会には各寺院の総代役員にも出席いただき、各寺院の事業報告や情報交換、役員同士の親睦も深め、研修を行いました。

近隣のお寺の様子を知ることや様々な情報を共有し、今後の課題や檀信徒との関わり方を見直すきっかけにもなっています。



先代恭英和尚の講義を受けるサントピアアップみやぎの会員

た。一九八一年に当時の宮城県曹洞宗青年会がカンボジア難民キャンプ地へ衣類を送る活動を始めて、一時難民キャンプ閉鎖に伴い支援を中止していましたが、長引く戦乱や教育制度の壊滅的な被害があり、重く受け止めた青年僧侶たちが、一九九三年にサントピアアップみやぎボランティア会を立ち上げ、現在もカンボジアへの継続的な支援をおこなっています。特に、先代が会長職を務めているシャンティ国際ボランティア会(SVA)と協力し、カンボジア教育支援を目的として、新校舎の贈呈や絵本と移動

お盆さん

今年もお盆を迎えるにあたりご先祖さまを送迎するための迎え火・送り火用のわら束を安楽寺の有志により製作し、本尊前にてご祈祷したのち販売しました。一束三百円で、今年は一〇八束製作し、売上金はシャンティ国際ボランティア会(SVA)に寄付しました。今年はすでに販売終了しましたが、毎年製作していることが徐々に知れ、ご祈祷しているおかげか、好評いただき早めに完売してしまいます。お寺にて販売しておりますので、来年以降お盆の準備をする際に購入希望の方はぜひ早めにお立ち寄りください。



図書館などを寄贈し、識字率の向上や地域に伝わる民話の伝承を支援しています。サントピアアップみやぎの立上げには安楽寺の先々代順天和尚とともにSVAを支えていただいた方たちが携わり、現在はその孫世代にあたる青年僧侶たちがその想いを引き継ぎ活動しています。こうしたご縁の深さには改めて感謝するばかりです。サントピアアップとは、カンボジアの公用語であるクメール語で「平和」



宮城県曹洞宗青年会と集合写真

消防団活動

上田市消防団第十七分団に所属してから数年が経過しました。近年、各地域において山火事や豪雨災害などの自然災害も増え、消防団の活動は火災現場だけではなく、地域の防災防犯対策の役割も担っています。

そんな中、毎年六月に日ごろの訓練の成果を披露するポンプ操法大会というのがあります。私の所属する分団は若手の新入団員が数年おらず、入団してから毎年選手として出場し、春になると大会に向けて早朝訓練が始まります。

しかし、なかなか思うような結果が残せず、歳を重ね体力の衰えを感じながらも悔しさをバネに納得するまで練習を重ねるしかありません。同じ悔しさを味わっている仲間たちの支えも大きな後押しとなっています。

今年も訓練の成果を発揮する時期がきました。今年こそは上位を狙いたいと団員気持ち一丸となって訓練に励みました。その結果、上田大会では準優勝することができ、その先の上田大会では四位入賞と好成績をおさめることができました。ここ数年上田大会でも入賞さえできなかったですが今回は飛躍することができ、喜びもひとしおです。

心のどこかで決められた規律や操法よりも実践ですぐ活動できる知識や訓練をしたほうがよいのではないかと思います。一つの目標に向かって日ごろ様々な職業や異なる生活をしている同志たちと心をひとつに取り組むことで、その絆は一層深まり、地域の方がたとの連携や関係性を良好に保つことでそれが地域防災に繋がっていくことを感じました。

今後も地域の方がたが安心安全な生活を送れるよう微力ながら協力をしていければと考えています。



上田市消防団第十七分団集合写真



ポンプ操法大会の様子